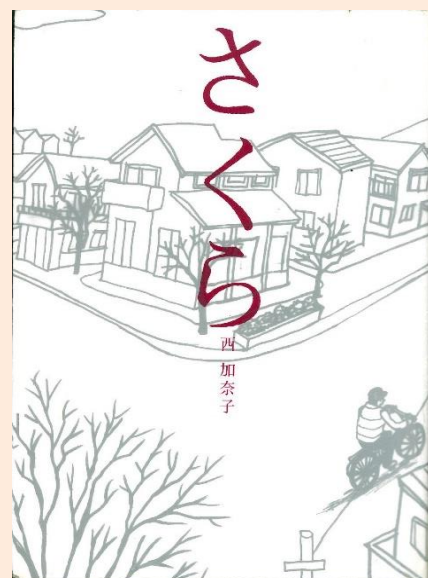


『さくら』 小学館
西 加奈子／著

東京の大学に通う長谷川薫は、大阪に帰省した。ヒーローだった兄を亡くし、温かさを失った実家にいるのは、引きこもりの妹、美しかった母、2年間音信不通だった父、老犬のサクラ。家族が幸せに満ちていた幼い頃から、傷つき、傷つけられながら大人になっていくそばには、いつもサクラがいた。



閉塞感漂う現在とは対照的に、思い出は鮮やかでみずみずしい。兄の事故死で家族関係が変化し、深い悲しみに陥った時も、よりどころとなるのは家族の幸せの象徴であるサクラだった。どんな時も変わらず日常を生きるサクラが救いとなる。